センターだより

ぎゅっと！

令和６年度 11 月号

四天王寺悲田院 児童発達支援センター

子どもたちの目標

「規則的な生活と元気な体づくり」
「意欲的にいろいろなあそびを楽しむ」
「自分のことは自分でする」
「家族以外の人と過ごすことができ、友達と仲良くできる」
「知らない所でもなじむことができる」
「気持ちや感性を適切に表現でき、落ち着いて行動できる」
「自分の意志を伝え、他人の意志を受け止められる」

11月の予定

16 日（土）おやすみ
23 日（祝・土）おやすみ
25 日（月）避難訓練（保育棟）
27 日（水）焼き芋会
30 日（土）11:45～14:30 昼店（事前申し込み制）
14:30～15:30 保護者学習会（外部講師）
※当日センターでの療育はありません

おしらせ

○実習生がきます

クラスに入りましたら、よろしくお願いします。
11/11（月）～11/22（金）四天王寺大学　（社会福祉士）　１名

○焼き芋会について

毎年恒例の焼き芋会を、11 月 27 日（水）午前設定時間中に行います。
センターの畑で育てたさつまいもを、10 月下旬に各クラスで収穫しました。当日はそのさつまいもを使い、園庭で職員が火を起こし、各クラス順番にお芋を焼いて食べます。
秋の少しひんやりとした空気の中、ホカホカの焼き芋を食べた時の子どもたちの顔や反応が楽しみです！

○昼店について

今年は 11 月 30 日（土）に昼店を行います。当日、児童発達支援センターの療育はお休みとなっておりますが、チケットを申込された方は屋台をお楽しみください。
詳細については、先日お配りしました別紙おたよりをご覧ください。

○保護者学習会について

テーマ：「こどもの学びと進路について」
講師：桃山学院教育大学
人間教育学部人間教育学科　長谷川陽一　教授
場所：悲田院児童発達支援センター　保育棟ホール
※保護者学習会への園児及びきょうだい児の参加はご遠慮ください。詳細は 11/1 に配信しましたお知らせをご確認ください。

子どもをみる２つの目

心理　髙木

人がものを見るときに、右目と左目で捉える像にはややズレが生じています（右目と左目を交互に開閉すると位置が変わったように見えます）。このズレを脳で処理することで人は“奥行き”を感じることができます。人が奥行きを捉え、立体感をもって世界を見るためには 2 つの目が必要なのです。子どもをみるときにも「共感の目」「評価の目」という 2 つの目でバランス良く見ることが大切と言われています。

「共感の目」とは子どもの立場に身を置いてみて、子どもの目に世界がどのように映っているのか、見てみよう、感じてみようとする目のことです。子どもには、たくさんの好きなこと（もの）/嫌いなこと（もの）があります。その事柄に「なぜ？」「どこが？」「どんな風に？」と疑問をもって見てみると、より深くその好き/嫌いを理解できると思います。そして、子どもにとってその遊びや行動、主張がどの様な意味をもっているのか、どんなことを訴えようとしているのかということを感じることに繋がると考えられます。例えば子どもの頃、天井の模様がピエロの顔みたいに見えて夜一人で寝るのが怖かった。砂利の中にキラキラ光る石があると宝石を見つけたみたいに嬉しかった…といった経験がある方もいらっしゃるのではないでしょうか？このような子どもの世界を一緒に見てみよう、感じてみようと大人が寄り添っていると子どもは安心感を得ることができます。そしてその安心感は、自分自身の力を信頼していく土台となります。

「評価の目」は、子どもの力（行動をコントロールする力、対人関係の力、ルール理解などお子さんによって目標や段階は様々です）がどのくらい身についてきているか客観的捉える目のことです。ちょっと言い方を変えると、子どもの成長や変化に“気付くこと”や“認めること”といった言い方もできるかもしれません。“評価”は子どもを褒めたり、叱ったり、励ましたりするために必要です。できたこと、頑張ってやっていることを大人に認められ、身近な大人と一緒に喜び、共有されることで子どもは他者への信頼感を獲得していくことができます。そして次の課題に挑戦するエネルギーを蓄えることができます。

また、人には利き手、利き足があるように「共感の目」「評価の目」にも人によってどちらかが優位になっている場合があります。評価の目、それもネガティブな評価の目が利き目になっていると、「あれもできてない、これもできない」とできていないことに目が行きがちになってしまうかもしれません。どちらが良い/悪いというものではなく、“今、どっちが利き目になっているかな？”と振り返ってみることも一つの手です。そして 2 つの目でバランスよく見ることによって、子どもの姿をより深く奥行きのあるものとして捉えることができるのではないかと思います。

以前、スクールカウンセラーをされている岩立哲治先生からこの「2 つの目」の話を聞いて、今でも心に残っているおはなしを紹介させて頂きました。私がお子さんと関わる上でも大切にしていきたいと思っています。